

## 平成 30 年度特別支援学校定数拡充（定数乖離解消）について

## 特別支援教育課

## 1 目的

特別支援学校の喫緊の課題である高等部の進路指導、高校の特別支援教育支援を拡充するため教職員の配置を充実する。

## 2 現状と課題

## (1) 進路指導について

- これまで、特別支援学校卒業生の就職率が 20%前後であったことを受け、①就労コーディネーターによる実習先開拓、②技能検定導入による学習内容の充実等に取り組んできた。しかし、進路指導主事が標準法定数通りに配置されておらず著しく多忙化しているため、小・中学部からの一貫性のあるキャリア教育の推進や、生徒増加に伴って増加する実習等の調整や移行支援会議等への参加に十分取り組めていない現状がある。
- 近年、就職後短期間で離職するケースが多い現状があり、卒業後の定着支援についても特別支援学校として対応が求められている(1年以内の離職者数:平成26年度卒 19.7%、平成27年度卒 16.7%)。

## (2) 高等学校への支援について

- 中学校特別支援学級からの高校進学者数並びに高校に在籍する発達障がいのある生徒数は増加し続けており、高校から特別支援学校への特別支援教育に係る相談ニーズが増加している。
- 平成 30 年度からの高校における通級による指導の実施に伴い、特別支援学校が有する専門的視点からの高校に対する具体的・実践的な指導・支援が喫緊の課題となっている。

## 3 事業内容

## (1) 進路指導主事の配置

## 生徒数が多い学校への複数配置 9 人

(長野、伊那、松本、上田、飯田、安曇、小諸、諏訪、稲荷山)

- ①小中学部から一貫したキャリア教育の計画と推進
- ②技能検定に向けた学習の推進
- ③地域の企業等と連携した学習の推進及び、協力企業登録制度等の推進
- ④移行支援会議の実施
- ⑤卒業生の巡回定着支援

## 高等部分教室への配置 7 人

(更級、あづみ野、うすだ、中の原、すざか、朝陽、しなの木)

- ①進路先での社会生活を想定し、ソーシャルスキルの指導や自己理解を深める指導等を充実
- ②併設する高等学校と、双方の教育資源を活用した学習の推進。また、高校の特別支援教育に関する相談支援を実施（高校併設分教室）
- ③地域の企業と連携したデュアルシステムによる職業教育を推進

## (2) 高等学校への自立活動担当教員による巡回支援

## 自立活動担当教員の配置 2 人

(上田養護学校、伊那養護学校 配置)

- ①通級指導実施校への定期的な巡回により、自立活動の指導内容等について支援・助言
- ②支援を必要とする生徒への指導に困難を抱える学級担任・教育相談担当者への指導・助言
- ③高校と外部機関との卒業後の切れ目のない支援に向けた支援体制の構築を支援
- ④一般高校教員の専門性の向上を図るための研修の実施